

# 千葉市 ChatGPT等の生成AIの活用に関するガイドライン

## 第1.0版

令和5年11月 1日  
千葉市総務局情報経営部

本ガイドラインは、ChatGPTをはじめとした「約款型クラウドサービスの生成AI※」（以下「生成AI」という。）を導入するに当たって、千葉市情報セキュリティポリシー（以下「セキュリティポリシー」という。）を遵守した上で、業務の効率化と市民サービスの向上に繋げるために、導入のルールや利用に関する遵守事項等必要な事項を定めたものです。

利用に当たっては、本ガイドラインのほか、セキュリティポリシーをはじめとした各種規程を遵守し、適正な利用に努めてください。

※ 「約款型クラウドサービスの生成AI」とは、「不特定多数の利用者に対して提供される、定型約款や規約等への同意のみで利用可能となるクラウドサービス」のことを指し、当該サービス以外のサービスは、委託契約を締結し利用するサービスが該当します。

なお、本ガイドラインは、生成AIの機能、環境、活用等の状況や変化に合わせ、適宜見直しを行います。

各所属における生成AIの利用にあたり、新たなリスクが発生するなど、適切な運用を行うことが困難と判断した場合には、一時的に利用を停止することがあります。

### 1 利用可能な生成AI

生成AIを利用する場合は、利用者が質問した内容を生成AIの学習に使用しないものであること又は学習を使用することを制限する機能を有するものであって、当該機能が有効な状態で使用することを原則とします。

※ 令和5年10月時点で、情報経営部で試行運用した実証実験（以下「実証実験」という。）により確認できた上記学習を制限する機能を有する生成AIは、「ChatGPT」のみです。

### 2 利用に当たって懸念されるリスク

生成AIの利用に当たって懸念されるリスクは、以下のとおりです。利用する際には、内容を十分に確認してください。

#### (1) 入力上のリスク

ア 個人情報や機密情報の漏洩

生成A Iの学習に制限を加えた場合であっても、個人情報や機密性2以上の情報は絶対に入力しないでください。

## (2) 生成物におけるリスク

### ア 誤情報の生成

生成A Iは、その特性上、必ずしも正しい事実を出力するとは限りません。

また、生成される結果は一見正しく見える内容であることもありますので、必ず生成された結果は複数人の目で確認してから利用してください。

### イ 他者著作物の引用による権利侵害

生成A Iは、インターネット上の情報を学習して、それらのデータから最も質問内容に適切な回答を生成します。

このとき、他者著作物がそのまま結果に出力されることがありますので、著作権違反などの権利侵害を行わないよう、アと併せて確認するようにしてください。

## 3 禁止事項

以下の事項については、情報セキュリティその他のリスクを考慮して禁止とします。

- (1) 個人情報や直ちに一般に公表することを前提としていない情報など、機密性2以上の情報を入力すること
- (2) 職員が確認しないまま、生成A Iの回答をそのまま使用すること

## 4 利用に当たっての遵守事項

本市で生成A Iを利用するに当たって、以下の遵守すべき事項を定めますので、十分に留意して利用するようにしてください。

- (1) 生成A Iを業務に利用する際は、あらかじめ所属長に了解を得てから利用してください。

※ 利用に当たって業務改革推進課の承認は必要ありませんが、今後、各所属における利用状況の把握やリスク発生時の調査のために利用者を尋ねることがありますので、所属長は利用状況の把握に努めてください。

- (2) セキュリティポリシーをはじめとした、本ガイドライン以外の各種規程についても遵守して利用してください。
- (3) 生成A Iの利用に当たっては、「2 利用に当たって懸念されるリスク」で述べたリスクが確認されていますので、利用時には十分注意するとともに、生成した回答を文書等に使用する場合には必ず複数の職員で確認し、必要な修正を行ってから使用するようにしてください。
- (4) 生成A Iが生成した回答を対外的に使用する場合、使用する文書等に対して、以下の記載例のように「生成A Iにより作成したもの」であることを明記してください。

**【記載例】**

①生成文章を改編せずにそのまま使用した場合

「本通知は、一部文章において生成A Iが生成した文章を使用しております。」

②生成文章を一部改編し使用した場合

「本通知は、生成A Iが生成した文章を一部改編して使用しております。」

(5) 利用に当たって運用上の問題が発生した場合は、直ちに所属長に報告してください。

## **5 利用可能な業務**

本ガイドラインを遵守する範囲で、すべての文書作成業務に利用可能とします。

生成A Iには、様々な利用方法がありますが、実証実験において特に以下の業務への有効性が確認されていますので、活用の参考としてください。

- (1) 文章の下書き、要約、翻訳、校正、その他表現を書き改める業務
- (2) 公開されている情報を表などに整理する業務
- (3) 着想やアイデアを発展させる業務
- (4) エクセルの関数やマクロの作成・修正を行う業務